

2025年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2026年4月13日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部・教授

(氏名) 北 美 幸

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	アメリカ合衆国における DE&I (Diversity, Equity, and Inclusion) をめぐる課題と今後の展望：高等教育機関を中心に		
交付額	590,000 円		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等

1. 研究の目的

研究代表者は 2020 年度から、アクション・リサーチとして、性的マイノリティ当事者交流会や啓発イベントの開催、各団体との交流などをおこなっている。その流れの中で、先進的な海外の国・地域（オーストラリア、台湾）のダイバーシティ推進施策のフィールドワークもおこなってきた。具体的には、LGBTQ+プライドパレードへの参与観察、企業・行政機関・大学の訪問聞き取り調査等により、マイノリティのエンパワメント、キャリアパス支援、就労・就学環境整備、事業体としての戦略目標、ジェンダーや先住民、障害など、同じくマイノリティ性を有する方々についての取り組みとの連携状況などの先進的な好事例を収集分析してきた。

翻って、DE&I (Diversity, Equity, and Inclusion) の発祥地であり、また、研究代表者の専門であるアメリカ合衆国では、特に 2017 年の第一次トランプ政権の発足以降、「アンチ DEI」の動きが加速している。ユダヤ教徒のコミュニティセンターにはヘイト落書きがなされ、コロナ禍によりアフリカ系への根強い差別と社会構造化した格差が顕になると同時にアジア系に対する物理的な暴力も増大した。また、1960 年代に導入された雇用や大学への入学におけるアファーマティブ・アクション（積極的差別解消策）は 2023 年、連邦最高裁において違憲であると判断された。性的マイノリティに関しては、特にトランスジェンダーへの風当たりが強く、南部の複数の州がトランス女性の高校生がスポーツの対外試合に出場することを禁じている。特にフロリダでは、学校で LGBTQ+に関する議論をすることや LGBTQ+に関する書籍を学校図書館や公共図書館に配架することを禁ずる州法が制定された。

本研究は、アメリカ合衆国のダイバーシティのあり方のアップ・トゥ・デートな状況について調査を

おこなおうとしたものであるが、その際、こういったバックラッシュの動きにも目を向けた。そのことにより、先進的な好事例の収集だけでは得られなかったダイバーシティ推進施策の弱点や課題、今後の展望といった視点を加え、研究の厚みを増すことを目的とした。

2. 研究の方法

1. アファーマティブ・アクション違憲判決と大学入学者選抜：「違い」に対する配慮のあり方の今後
 2. 大学・公共機関での性的マイノリティ構成員（学生、教職員）に係る取り組み
- の2点について、以下の方法により研究をおこなった。

・フォードム大学（ニューヨーク市）の Office of Multicultural Affairs を2回（4月、6月に各1回）、Campus Ministry を1回（5月）訪問し、どのような LGBTQ+学生向け施策をおこなっているのか、イエズス会系大学としての課題、ダイバーシティへの取り組みに対する現政権からの弾圧の影響や大学としての対応のあり方などについて聞き取り調査した。

・ニューヨーク市における各区（クイーンズ6月1日、ブルックリン6月14日、ブロンクス6月21日）のプライドパレードおよび NYC プライド（6月29日）、Queer Liberation March（オルタナティブ・プライド、6月29日）に参加観察し、ローカルな取り組みのあり方、トランスヘイトの現況あるいはパレスチナ解放運動との連携状況等を観察した。

・ストーンウォール国立史跡、LGBTQ+コミュニティセンター、CBST（LGBT ユダヤ教寺院）等をそれぞれ複数回訪問調査し、上記の事柄について見学調査および聞き取り調査をおこなった。

・LGBTQ+コミュニティセンター文書館、レズビアン・ハーストリー文書館において、1970年代前半に発足した各種当事者団体の初期の取り組みについて資料調査をおこなった。（添付資料1）

・1960年代後半から現在に至るまでのアファーマティブ・アクションの是非を巡る論争と裁判について、カリフォルニア大学やミシガン大学の事例を中心に、教科書用原稿の草稿として執筆した。

3. 研究成果

本研究の成果は、研究代表者の授業「アメリカ史の争点」「英米文化概論Ⅱ」はじめ、「教育現場における性の多様性を考える～講演とシンポジウム」等のその他の教育活動に幅広く還元している。また、ニューヨーク市での調査のうち、大学オフィス訪問や NYC プライド出走には日本からの学生も参加しており（他大学）、学生向けダイバーシティ先進国視察・見学スタディーツアーの造成作業としても位置づけることができる。活字あるいは口頭発表による研究成果としては、以下の通り。

北美幸「ストーンウォール国立史跡：『世界で一番有名なゲイバー』とその周辺」、北米エスニシティ研究会、キャンパスプラザ京都（オンライン参加）、2025年12月21日。

（添付資料2：レジュメおよびパワーポイント原稿）

北美幸「第二次トランプ政権下のストーンウォール・インとその周辺」大学教職員ネットワーク交流会、中京大学名古屋キャンパス、2026年3月9日。

また、「アメリカにおける公平と多様性の相克——アファーマティブ・アクションに見る分断（仮題）」を、2027年3月刊行予定の国際関係学科教科書（法律文化社）に掲載する予定である。